小型運搬車
ＢＨ４１

取扱説明書

⚠ 警　告
・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。 ・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3572 6101 002

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

・本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。

・本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意味
⚠ 危険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

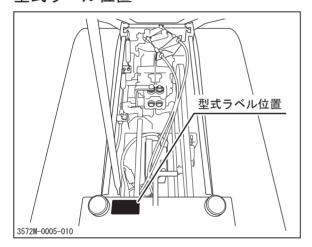
保証とアフターサービスについて

保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞10ページ）

型式ラベル位置

型式ラベル

補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目　　次

５．保守・お手入れ 28

６．不具合発生時の処置 48

７．本製品の移送 51

保証書

本書の巻末に添付
※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

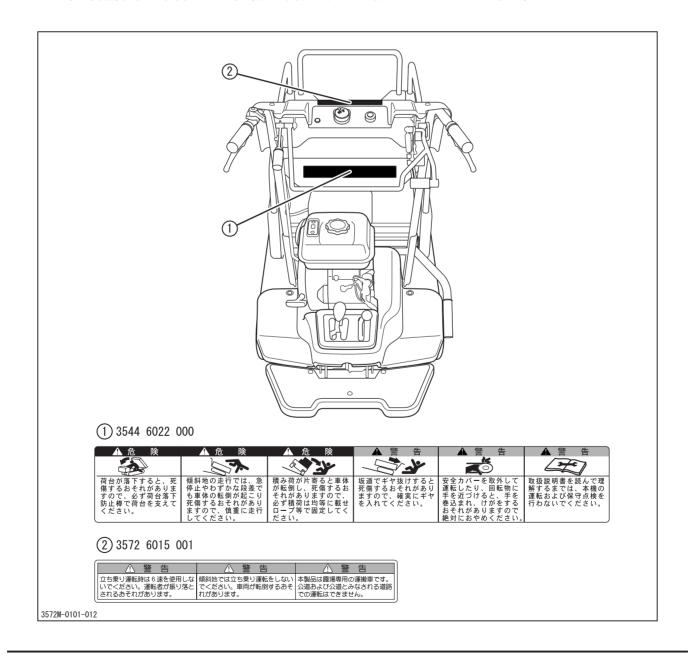
・エンジン取扱説明書
※本書とあわせて必ずお読みください。

本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

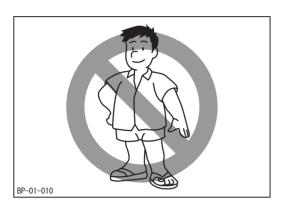
・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

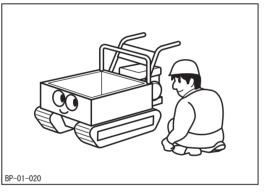
・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

安全運転・作業のための心得

運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

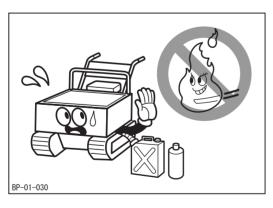
運転前の心得

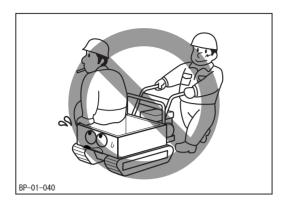
BP-01-010

正しい服装と保護具の着用

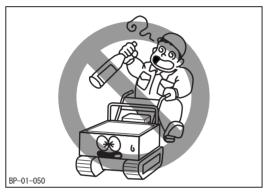
運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転・作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。

BP-01-020

始業点検の励行

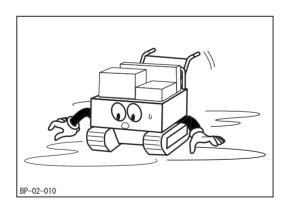
運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

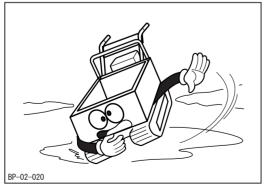
BP-01-030

火気厳禁

燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。

同乗禁止

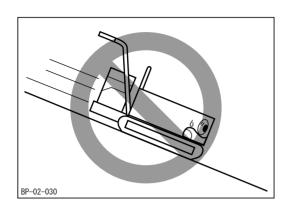
本製品は一人乗りです。運転者以外の人を乗せての運転は行わないでください。

無謀運転禁止

飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。

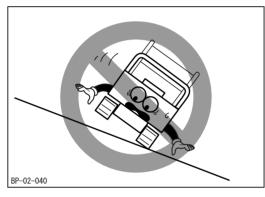
走行時の心得

安全速度遵守

発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。

急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。

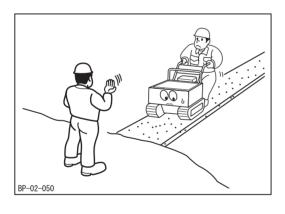
BP-02-030

下り坂では低速で走行する

下り坂の前で一旦停止した後、変速レバーを1速～3速(副変速を低速)に入れ、下るときにはエンジンブレーキを使用しながら低速で走行してください。

BP-02-040

斜面の横断、旋回禁止

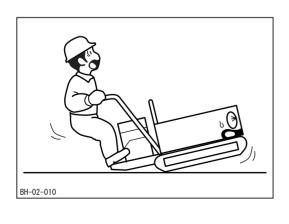
斜面はまっすぐ上り下りし、横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。

また、斜面での旋回は行わないでください。逆旋回のおそれがあり危険です。

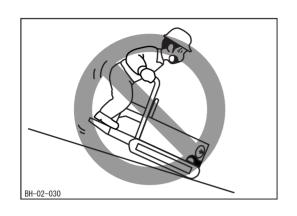
BP-02-050

危険な場所では誘導者の指示に従う

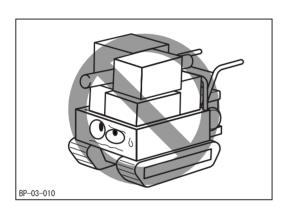
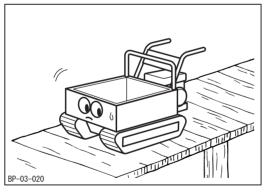
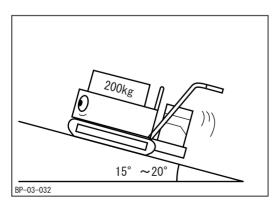
見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

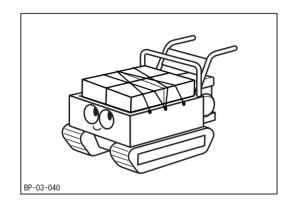
立ち乗り運転時の心得

BH-02-010

安全速度遵守

立ち乗り運転時は運転者が振り落とされたり車両が転倒したりするおそれがありますので、注意してください。特に空車時は転倒しやすいので十分注意してください。

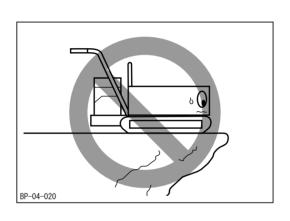
また、立ち乗り運転時は6速を使用しないでください。

傾斜地での立ち乗り禁止
傾斜地では立ち乗り運転をしないでください。車両が転倒をするおそれがあります。

積載時の心得

過積載禁止
本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。

制限重量に注意
木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

傾斜地での積載量に注意
15°　～20°　の傾斜地では、積載量を200kg以下にして走行してください。20°　～25°　の傾斜地では、空車で走行してください。25°　を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。

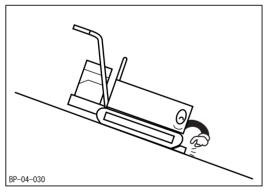
BP-03-040

積荷は正しく載せる

積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得

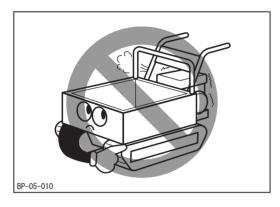
BP-04-020

危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。

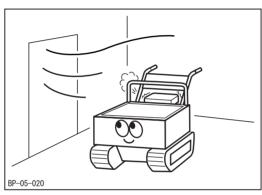
BP-04-030

傾斜地での輪止め励行

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

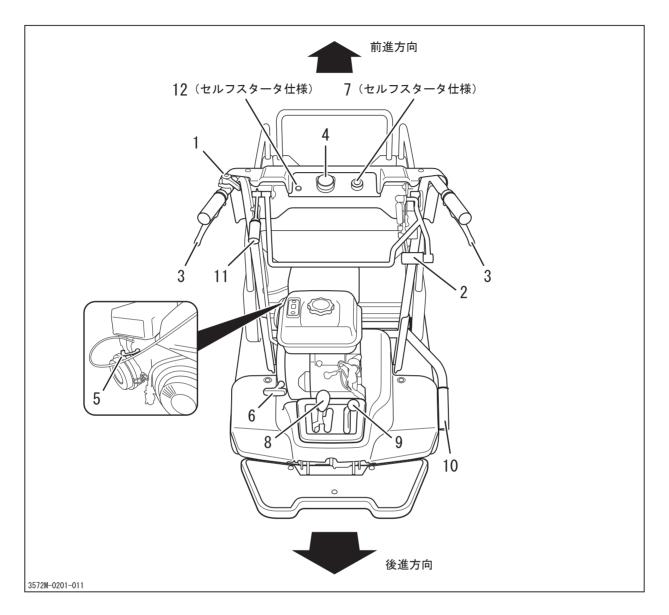
整備時の心得

BP-05-010

エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。

BP-05-020

換気に注意

室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。

各部の名称とはたらき

1　**アクセルレバー**　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジン回転数の増減を行います。

2　**走行クラッチレバー**　‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンからの動力を断続させるときに使用します。

3　**サイドクラッチレバー**　‥‥‥‥‥‥車両を旋回させるときに使用します。

4　**メインスイッチ**　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動または停止させるときに使用します。

5　**チョークレバー**　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動させるときに使用します。チョークバルブの開閉を行います。

6　**スタータノブ**　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動させるときに使用します。

7　**スタータスイッチ** ･･････････エンジンを始動させるときに使用します。

8　**変速レバー** ･････････････････車両の前後進、走行速度を切り替えるときに使用します。

9　**副変速レバー** ･･･････････････車両の走行速度を切り替えるときに使用します。

10 **手動ダンプレバー** ･･････････荷台の上昇または下降を行うときに使用します。ダンプレバーを持ち上げると、荷台のロック装置が解除されます。

11 **ハンドル角度切替レバー** ････ハンドル角度を切り替えるときに使用します。レバーを持ち上げるとロックが解除されます。

12 **後進警告ランプ** ････････････後進時に点灯します。

本製品の仕様

⚠ 注　意
・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				BH41		
				サイドフレーム	箱型三方開	箱型三方開ワイド
機械質量			kg	195[180]	210[195]	215[200]
最大作業能力			kN(kg)	3.92(400)　乗車時は2.94(300)		
機械寸法	全長		mm	1705{1815}	1800{1910}	1860{1970}
	全幅		mm	675	830	990
	全高		mm	1080{900}		
	クローラ接地長		mm	740		
	クローラ中心距離		mm	495		
	最低地上高		mm	90		
	床面高さ		mm	370	385	
荷箱	形式			サイドフレーム	箱型三方開	箱型三方開ワイド
	荷箱内側寸法	長さ	mm	950〈1110〉	1050	1110
		幅	mm	520〈900〉	745	905
		高さ	mm	150	200	
	ダンプ方式			手動ダンプ		
	ダンプ角度		度	50	55	40
エンジン	名称			クボタ GR130	三菱 GB130	
	形式			空冷4サイクル単気筒ガソリン		
	シリンダ(内径×行程)		mm	61×43	62×42	
	総排気量		cm^3(cc)	125(125)	126(126)	
	最大出力		kw(PS)/rpm	3.2(4.3)/2000	3.0(4.2)/2000	
	最大トルク		N･m(kgm)/rpm	15.6(1.59)/1400	15.3(1.56)/1400	
	始動方式			セルフスタータ式[リコイルスタータ式]		
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン		
	燃料消費率		g/kW･h(g/PS･h)	313(230)	313(230)	
	燃料タンク容量		ℓ	3.0	2.5	
	潤滑油容量		ℓ	0.55	0.5	
	点火方式			電子点火		
	点火プラグ品番			NGK BPR2HS	NGK BP6HS	
電装	バッテリ品番			YTX5L-BS-GY1C[-]		
	バッテリ電圧		V	12[-]		
	バッテリ10時間率容量		Ah	4[-]		

<table>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">名　称　・　型　式</td><td></td><td colspan="3">BH41</td></tr>
<tr><td></td><td>サイドフレーム</td><td>箱型三方開</td><td>箱型三方開ワイド</td></tr>
<tr><td rowspan="10">走行性能</td><td rowspan="8">走行速度</td><td>前進1速</td><td>km/h</td><td colspan="3">0.4</td></tr>
<tr><td>前進2速</td><td>km/h</td><td colspan="3">0.7</td></tr>
<tr><td>前進3速</td><td>km/h</td><td colspan="3">1.2</td></tr>
<tr><td>前進4速</td><td>km/h</td><td colspan="3">1.6</td></tr>
<tr><td>前進5速</td><td>km/h</td><td colspan="3">2.7</td></tr>
<tr><td>前進6速</td><td>km/h</td><td colspan="3">4.4</td></tr>
<tr><td>後進1速</td><td>km/h</td><td colspan="3">0.6</td></tr>
<tr><td>後進2速</td><td>km/h</td><td colspan="3">2.1</td></tr>
<tr><td colspan="2">最小回転半径</td><td>m</td><td colspan="3">1.2</td></tr>
<tr><td colspan="2">登坂能力</td><td>度</td><td colspan="3">25(空車)</td></tr>
<tr><td rowspan="7">動力伝達装置</td><td colspan="2">クラッチ形式</td><td></td><td colspan="3">ベルトテンション式</td></tr>
<tr><td colspan="2">主変速形式</td><td></td><td colspan="3">ギヤスライド</td></tr>
<tr><td colspan="2">副変速形式</td><td></td><td colspan="3">ギヤスライド</td></tr>
<tr><td colspan="2">操向装置形式</td><td></td><td colspan="3">ドグクラッチ・爪ロック式</td></tr>
<tr><td colspan="2">ブレーキ形式</td><td></td><td colspan="3">内拡式ブレーキ</td></tr>
<tr><td colspan="2">クローラサイズ</td><td></td><td colspan="3">180×32×72</td></tr>
<tr><td colspan="2">トランスミッション油量</td><td>ℓ</td><td colspan="3">1.5</td></tr>
</table>

｛　｝内はハンドルが歩行位置（最下降位置）の時
〈　〉内はサイドフレーム延長時
［　］内はリコイルスタータ仕様
※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1	エンジン整備用

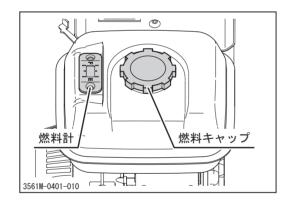
運転前の準備

始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞28ページ）を参照してください。

燃料の点検と補給

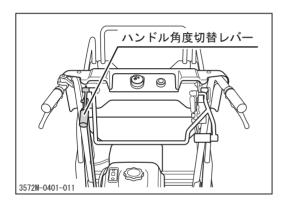
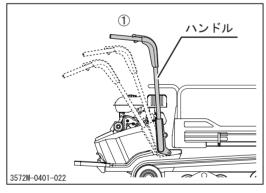
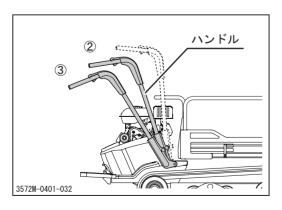
⚠ 警　告

- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

1. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は燃料を補給します。
2. 燃料キャップを開け、燃料を補給します。
3. 燃料キャップを確実に閉めます。

アドバイス

- 使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
- 燃料タンク容量：3.0ℓ(クボタエンジン)
  2.5ℓ(三菱エンジン)

ハンドル角度の切り替え

⚠ 注　意
・ハンドル角度切替時に手や指をはさまないように十分注意してください。 ・ハンドル角度の切替後は、ハンドルを前後に動かし、確実にロックされていることを確認してください。

1. ハンドル角度切替レバーを上に持ち上げながら、ハンドルを動かし、ハンドル角度を切り替えます。
2. ハンドル角度切替レバーを元に戻し、ハンドルを確実にロックします。

3. 立ち乗り運転時はハンドルを①にします。

4. 歩行運転時はハンドルを②または③にします。身長にあわせて角度を切り替えてください。

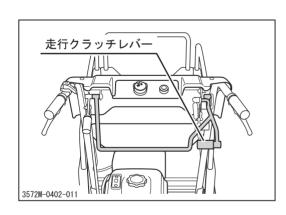
運転のしかた

始動のしかた

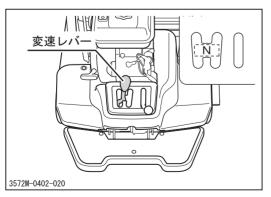
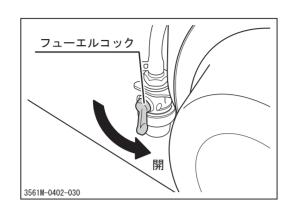
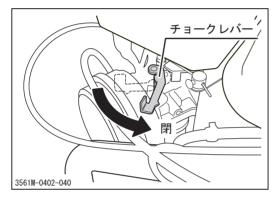
⚠ 警　告

- エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。
- エンジンの始動は必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

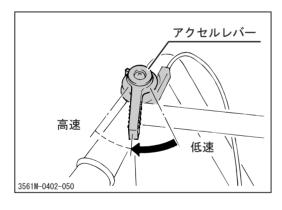
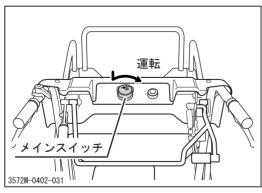
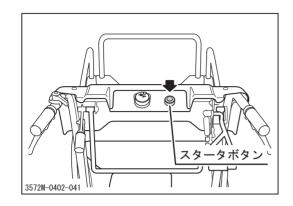
⚠ 注　意

- エンジン回転中は、スタータスイッチを押さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。
- 15秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合は30秒以上休んでから再始動してください。
- 冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンの寿命を短くすることになります。

1. 走行クラッチレバーが「停車」にあることを確認します。

アドバイス

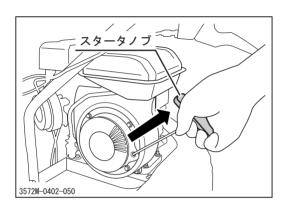
- セルフスタータ仕様は始動安全装置を装備しているため、走行クラッチレバーが「停車」の状態でないとエンジンを始動できません。

2. 変速レバーが「N（ニュートラル）」にあることを確認します。

3. フューエルコックを「開」にします。

4. チョークレバーを「閉」にします。

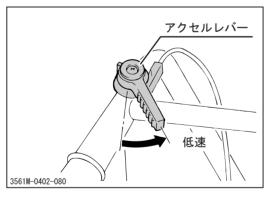
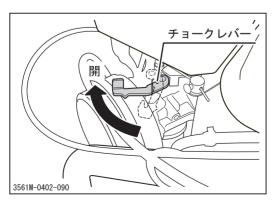
アドバイス

・エンジンが暖まっている場合はこの操作は必要ありません。

5. アクセルレバーを「高速」側に少し動かします。

6. メインスイッチを下に押したまま右に回し、「運転」にします。

セルフスタータ仕様の場合

7. スタータボタンを押し、エンジンを始動させます。

アドバイス

- 頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンを始動したら、しばらく連続運転をして、バッテリを充電するようにしてください。
- バッテリ上がりなどにより始動できない場合は、メインスイッチを「運転」にし、リコイルスタータでエンジンを始動してください。

リコイルスタータ仕様の場合

7. スタータノブを勢いよく引き、エンジンを始動します。

8. エンジン始動後、アクセルレバーを「低速」にします。

9. チョークレバーを戻します。
10. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

アドバイス

- 購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

⚠ 警　告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・ハンドル・ステップは必ず適切な位置で使用してください。安全な運転操作を妨げるおそれがあります。

・歩行運転時は必ずハンドルを歩行運転位置にしてください。立ち乗り運転位置で運転すると、挟まれ防止装置が作動しないおそれがあります。

・歩行運転時は必ずステップを格納してください。挟まれ防止装置が作動しないおそれがあります。

・立ち乗り運転時は6速を使用しないでください。運転者が振り落とされたり車両が転倒したりするおそれがあります。

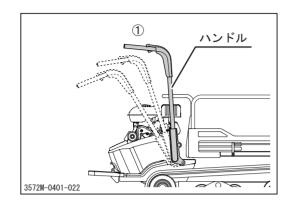
・傾斜地では立ち乗り運転をしないでください。車両が転倒するおそれがあります。

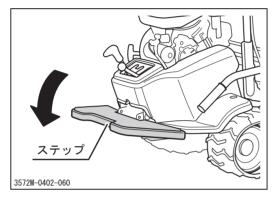
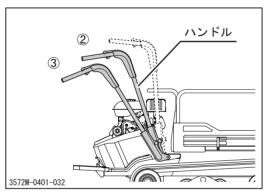
・発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。

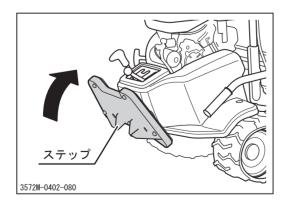
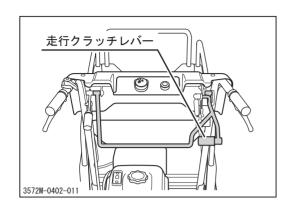
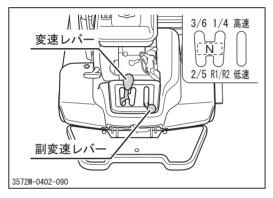
・旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。

・急発進、急加速、急旋回を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

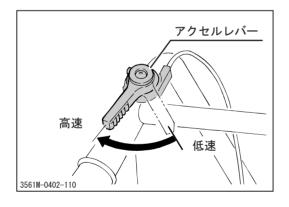
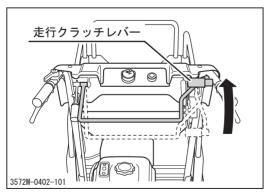
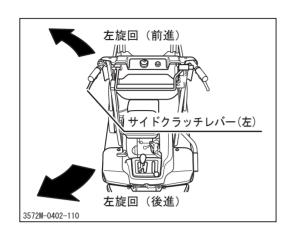
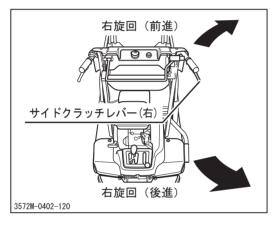
⚠ 注　意

・走行クラッチレバー操作時はグリップ部を操作してください。グリップ以外を持つと手や指をはさむおそれがあります。

立ち乗り運転時

1.　ハンドル角度を①に切り替えます。

2.　ステップを手前に倒して展開します。

歩行運転時

1.　ハンドル角度を②または③に切り替えます。

2.　ステップを持ち上げて格納します。

3. 車両の前後、左右の安全を確認します。
4. 走行クラッチレバーが「停車」にあることを確認します。

5. 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

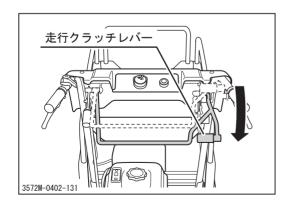
アドバイス

- **各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞10ページ）を参照してください。**
- **変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。**

6. アクセルレバーを「高速」側に動かし、エンジンの回転数を上げます。

7. 走行クラッチレバーを「走行」にし、車両を発進させます。

8. 左旋回したい場合は左側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

9. 右旋回したい場合は右側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

停止のしかた

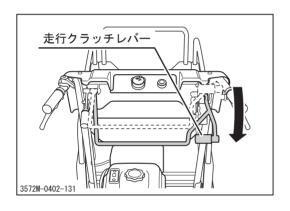
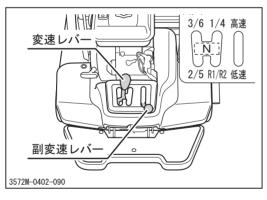
⚠ 警　告

・急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。

・停止の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停車しないでください。

1. アクセルレバーを「低速」側に動かし、車両を減速させます。
2. 走行クラッチレバーを「停車」にし、車両を停止させます。

変速のしかた

⚠ 警　告

- 変速操作は必ず車両を停止させてから行ってください。
- 変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。

1. 走行クラッチレバーを「停車」にし、車両を停止させます。

2. 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

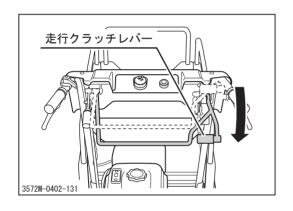
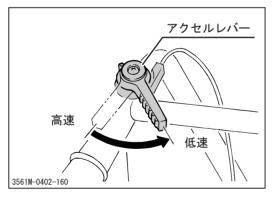
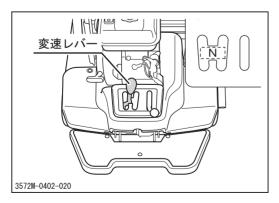
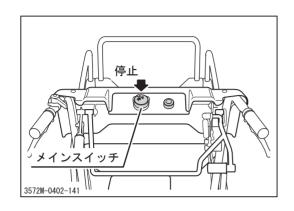
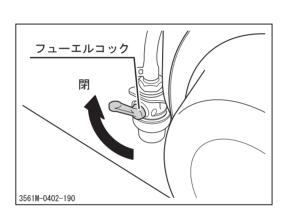
アドバイス

- 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞10ページ）を参照してください。
- 変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。

駐車のしかた

⚠ 警　告

・駐車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。

・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

1. 走行クラッチレバーを「停車」にし、車両を停止させます。

2. アクセルレバーを「低速」にし、エンジンの回転数を下げます。

3. 変速レバーを「N（ニュートラル）」にします。

4.　メインスイッチを押し、「停止」にし、エンジンを停止させます。

アドバイス

・エンジン回転数が低回転の状態で長時間使用すると、点火プラグにカーボンがたまりやすくなります。低回転で長時間使用した場合には、エンジン停止前に高回転で連続運転をし、カーボンを除去してください。

5.　フューエルコックを「閉」にします。

作業のしかた

ダンプ操作

⚠ 警　告

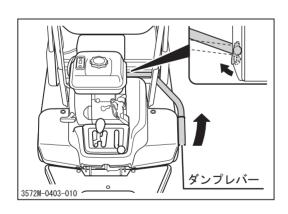
・ダンプ操作時は必ず周囲の安全を確認してください。

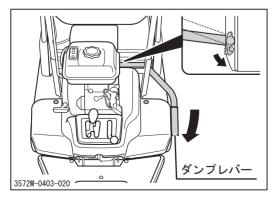
・傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。車両が転倒するおそれがあります。

⚠ 注　意

・積荷が前方に偏っている状態では、ダンプをさせないでください。荷台のロックを解除すると同時に急激にダンプするおそれがあります。

・積載したまま荷台を下降させる場合は、ゆっくりと下降させてください。

・箱形三方開仕様でダンプ操作をする場合は、必ず前ドアの荷枠パイプを外して使用してください。。

荷台を上昇させる場合

1. ダンプレバーを持ち上げ、荷台のロックを解除します。
2. そのままダンプレバーを持ち上げ、荷台を上昇させます。

荷台を下降させる場合

3. ダンプレバーを持ち、荷台を下降させます。
4. ダンプレバーを戻し、荷台を確実にロックします。

アドバイス

・ダンプレバーを持たずに荷台を下降させると、荷台のロックができません。

荷台落下防止棒の操作

⚠ 警　告
・点検等で荷台を上昇させた場合には、必ず荷台落下防止棒で荷台を確実に支えてください。

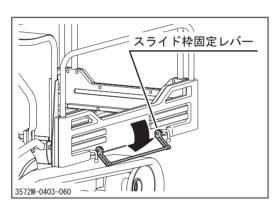
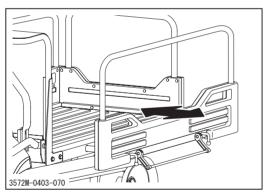
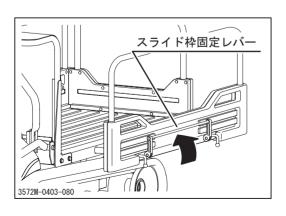
⚠ 注　意
・荷台を下降させる前に、必ず荷台落下防止棒を元に戻してください。

1. 荷台を上昇させます。
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。

スライド枠の操作（サイドフレーム仕様のみ）

⚠ 注　意

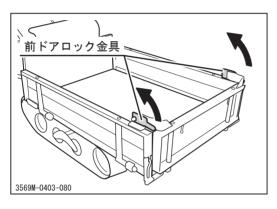
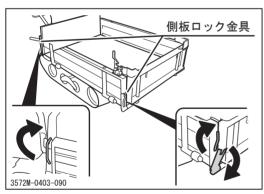
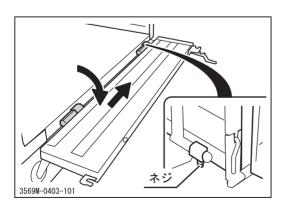
・スライド枠は必ず固定して使用してください。

・スライド枠は黒ラインより引き出して使用しないでください。スライド枠が破損するおそれがあります。

1. スライド枠固定レバーを倒して固定を解除します。

2. スライド枠を任意の位置に調整します。

3. スライド枠固定レバーを起こして固定します。

荷台側板の操作（箱型三方開、箱型三方開ワイド仕様）

⚠ 注　意

・側板を開いて使用する場合は、必ず前ドアを垂直位置に固定するか取り外して使用してください。

・側板を開いて使用する場合は、必ず側板の荷枠パイプを外して使用してください。

1. 前ドアロック金具を解除します。

2. 側板ロック金具を解除し、側板を開きます。

3. 側板が水平位置まで倒れたら、前方にスライドし固定します。
4. ネジを締めてロックします。

5 保守・お手入れ

定期点検表

⚠ 注 意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期 始業	点検時期 月次	点検時期 年次	備考
エンジン	潤滑装置	油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞34ページ
		ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと	○	○	○	
	エアクリーナ	ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと		○	○	
		エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	清掃/交換：☞36ページ
	点火プラグ	電極に消耗がなく、カーボンの堆積がないこと			○	清掃/交換：☞36ページ
	燃料装置	燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと		○	○	
		燃料ホースに損傷または劣化がないこと		○	○	
		フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	清掃：☞37ページ
		燃料タンク内に水および沈殿物がないこと		○	○	
	始動性	エンジンの始動が容易で異音がないこと	○	○	○	
	回転の状態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと			○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンを加速した時にアクセルレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと	○	○	○	
	排気の状態	エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること	○	○	○	
		排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	点検時期 月次	点検時期 年次	備考
エンジン	締め付け	シリンダヘッドおよびマニホールドの締め付け部のボルトおよびナットに緩みがないこと ※これらの部分からガス漏れが認められない場合はこの検査を省略してもよい			○	
	弁隙間	弁隙間が正規であること ※弁隙間の異常による異音がなく、エンジン回転に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください
	圧縮圧力	圧縮圧力が正規であること ※アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください
	エンジンマウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
走行装置	クローラ	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		緩みまたは張り過ぎがないこと	○	○	○	点検/調整：☞38ページ
		張りボルトに変形、腐食がないこと	○	○	○	
	トランスミッション	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	交換：☞39ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	Vベルト	ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	点検/調整：☞40ページ
		Vベルトに著しい摩耗または損傷がないこと		○	○	
	走行クラッチ	アイドリング状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること		○	○	
		クラッチを接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること		○	○	
	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	調整：☞41ページ
		ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	サイドクラッチ	操作時に異音がなく確実に作動すること	○	○	○	
		レバーの遊びおよび引きしろが適正であること	○	○	○	点検/調整：☞42ページ
		ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆び付きがないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
走行装置	転輪 遊動輪 スプロケット	亀裂、変形および著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		軸部にガタ、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		軸部周辺より油漏れがないこと		○	○	
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
車体・安全装置等	車枠 および 車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	カバー	亀裂、変形がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台 および 荷扉	荷台の上下が円滑におこなえること		○	○	
		ドアの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒に変形がないこと		○	○	
	マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
電気装置	バッテリ	端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
		配線に損傷がないこと		○	○	
	充電装置	正常に作動すること			○	販売店に点検を依頼してください

給油一覧表

項　目	補給（交換）時期	推　奨　品	容量
燃　料	随時	自動車用無鉛ガソリン	3.0ℓ*1 2.5ℓ*2
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：20時間*1、25時間*2 2回目以降：100時間毎*1、50時間毎*2	エンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30または10W-40	0.55ℓ*1 0.5ℓ*2
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	1.5ℓ

*1　クボタエンジン
*2　三菱エンジン

消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施されるときは、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

項　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
エアクリーナエレメント*1	13901-11210	不具合があれば交換	1
エアクリーナエレメント*2	KA01091AA004	不具合があれば交換	1
点火プラグ（NGK BPR2HS）*1	12931-67740	不具合があれば交換	1
点火プラグ（NGK BP6HS）*2	FA21273	不具合があれば交換	1
フューエルフィルタエレメント*1	12866-43160	不具合があれば交換	1
フューエルフィルタ*2	KF31035AA003	不具合があれば交換	1
走行装置			
Vベルト（エンジン-中間 LB28(AG6)）	08521600028	不具合があれば交換	1
Vベルト（中間-トランスミッション LB63）	08521300063	不具合があれば交換	1
クローラ	35722021000	不具合があれば交換	2
ブレーキシュー	73184019000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（走行クラッチ）	35723112000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（ブレーキ）	35723113000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（サイドクラッチ）	35723023000	不具合があれば交換	2
電装品			
バッテリ*3	35710207000	不具合があれば交換	1
ヒューズ15A（青）*3	09801001504	不具合があれば交換	1

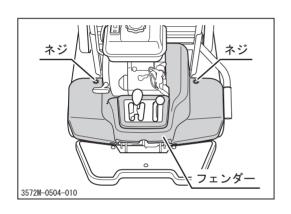
*1　クボタエンジン
*2　三菱エンジン
*3　セルフスタータ仕様のみ

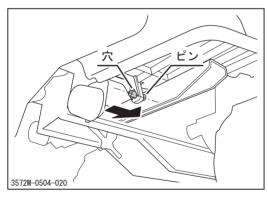
カバーの取り外しかた・取り付けかた

⚠ 注　意

・カバーの取り外し・取り付け時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

フェンダー

取り外し

1. ネジ（2本）を取り外し、フェンダーを取り外します。

取り付け

1. カバーの穴を車体側のピンに通し、カバーを取り付けます。
2. ネジを取り付けます。

エンジン

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

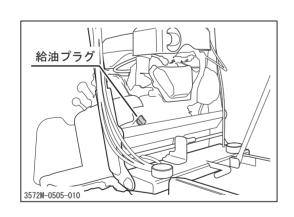
・エンジン停止直後はエンジンオイルおよびエンジン各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 警　告

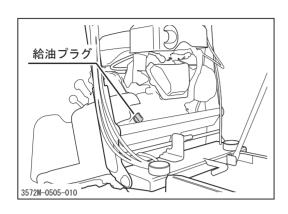
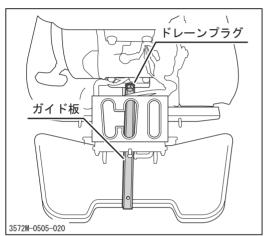
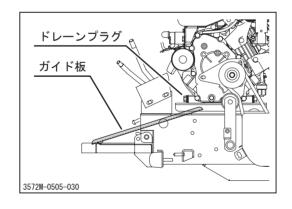
・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

点検

1. 車体を水平な場所に駐車します。
2. 荷箱を上昇させ、落下防止棒で確実に固定します。
3. 給油プラグを取り外します。
4. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、オイルの点検を行います。
5. 給油プラグを取り付けます。
6. 荷箱を下降させます。

アドバイス

・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。

補給

1. 給油プラグを取り外します。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従ってオイルの補給を行います。
3. オイル量を点検します。
4. 給油プラグを取り付けます。

交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. フェンダーを取り外します。
3. ゴムマットを取り外します。
4. オイル交換用ガイド板をセットします
5. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
6. ドレーンプラグを取り付けます。
7. オイル交換用ガイド板を取り外します。
8. オイルを補給します。
9. ゴムマットを取り付けます。
10. フェンダーを取り付けます。

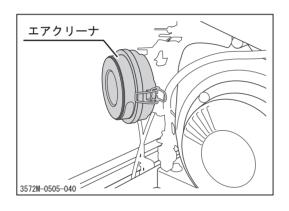
アドバイス

・オイル量：0.55ℓ(クボタエンジン)
　　　　　　0.5ℓ(三菱エンジン)

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注 意

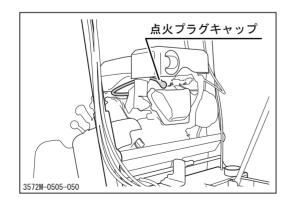
・エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、定期的に清掃するように心がけてください。

・エレメントに穴が開いている場合は、すぐに新品と交換してください。

1. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エアクリーナの清掃・交換を行います。

点火プラグの点検・清掃・交換

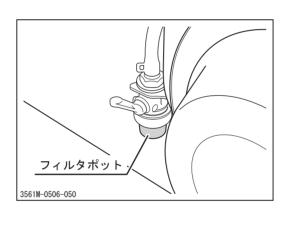
⚠ 注 意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。

・点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
4. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り付け、荷台を下降させます。

フューエルフィルタの清掃

⚠ 警　告

- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。
- 廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

1. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、フューエルフィルタの清掃を行います。
2. エンジン始動後、取付部から燃料の漏れがないことを確認します。

走行装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

クローラの点検・調整

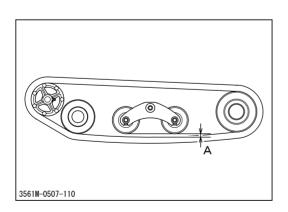
⚠ 警　告

・作業時はジャッキが外れないように確実に固定してください

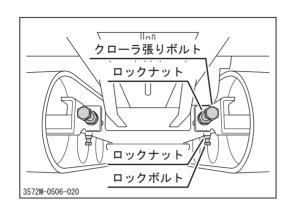
⚠ 注　意

・クローラは必ず適正な張りで使用してください。脱輪したり、クローラの寿命が短くなったりするおそれがあります。

アドバイス

・クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが発生しますので、定期的に点検・調整を行ってください。

点検

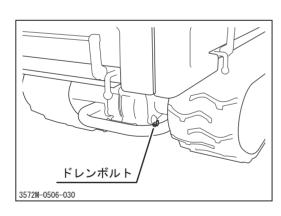
1. 車両をジャッキアップし、地面と平行になるように浮かせます。
2. クローラと転輪の隙間Ａが10～15㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合には調整します。
3. 車両を降ろします。

3572M-0506-020

調整

1. 車両をジャッキアップし、地面と平行になるように浮かせます。
2. 車両下側のロックナット、ロックボルトを緩めます。
3. ロックナットを緩めます
4. クローラと転輪の隙間Ａが10～15㎜になるようにクローラ張りボルトで調整します。
5. ロックナットを確実に締め付けます。
6. 車両下側のロックナット、ロックボルトを確実に締め付けます。
7. 車両を降ろします。

トランスミッションオイルの交換

⚠ 警　告

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

3572M-0506-030

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。

給油プラグ

3572M-0506-040

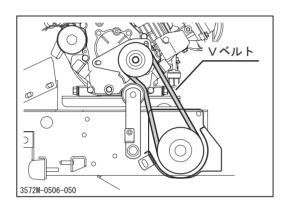
5. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
6. 給油プラグを取り外します。
7. じょうご等を使用し、給油口より指定のオイルを補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. 荷台を下降させます。

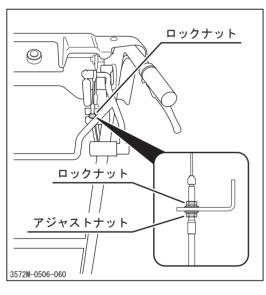
アドバイス

・オイル量：1.5ℓ

Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

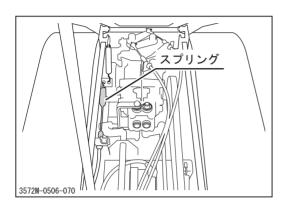
・ベルトがすべる場合にはベルトの張りを調整してください。ベルトの寿命が短くなるおそれがあります。

点検

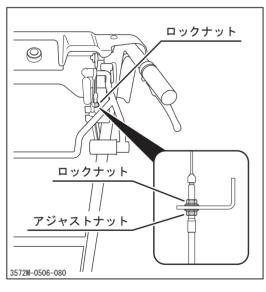
1. フェンダーを取り外します。
2. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
3. フェンダーを取り付けます。

調整

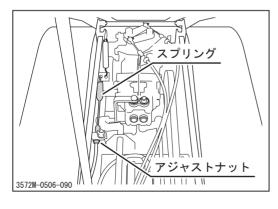
1. 走行クラッチレバーを「停車」にします。
2. ロックナットを緩めます。
3. ベルトがすべる場合は、アジャストナットを締め、ベルトを張ります。
4. 走行クラッチの切れが悪い場合は、アジャストナットを緩めます。
5. ロックナットを締め付けます。

ブレーキの点検・調整

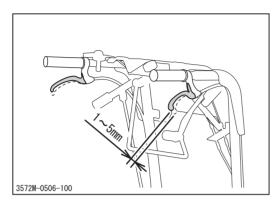
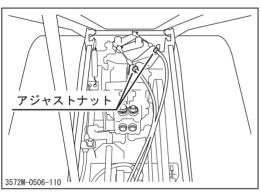
⚠ 警　告

・ブレーキの効きが少しでも甘くなったらすぐに調整を行ってください。

点検

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. 走行クラッチレバーを「停車」の位置に入れます。
3. スプリングの伸びが約5mmであるか点検します。適正でない場合には調整します。
4. 荷台を下降させます。

調整（レバー側で行う場合）

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. ロックナットを緩めます。
3. スプリングの伸びが5mmになるようにアジャストナットで調整します。
4. ロックナットを締め付けます。
5. 荷台を下降させます。

調整（ブレーキ側で行う場合）

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. スプリングの伸びが約5mmになるようにアジャストナットで調整します。
3. 荷台を下降させます。

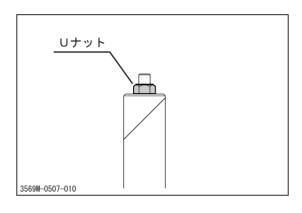
サイドクラッチの調整

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. サイドクラッチレバーの遊びが1～5mmになるようにアジャストナットで調整します。
3. 荷台を下降させます。

荷台装置

スライド枠の調整（サイドフレーム仕様のみ）

⚠ 注　意

・スライド枠に注油をしないでください。スライド枠が固定できなくなります。

スライド枠が固定できないときや動きが悪い場合は、スライド枠を調整してください。

1. スライド枠を取り外します。
2. Uナットの締まりを調整します。スライド枠の操作が固い時はUナットを緩め、スライド枠が固定できないときはUナットを締めます。
3. スライド枠を荷台フレームに取り付けます。

電気装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止し、メインスイッチを「停止」の位置にしてください。

バッテリの充電（セルフスタータ仕様のみ）

⚠ 警　告

・バッテリに火気を近づけないでください。

・バッテリの充電は車両から取り外して行ってください。

・バッテリを充電するときは、密閉式バッテリ対応型の充電器を使用してください。また、バッテリ容量に適合した充電器を使用してください。バッテリが使用不能になったり、破裂したりするおそれがあります。

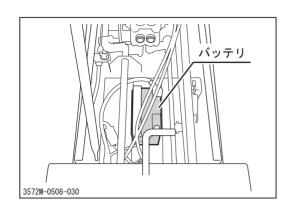
・バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意

・バッテリを充電するときは、充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

・バッテリ端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。

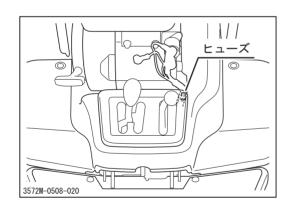
・バッテリ端子をバッテリに取り付けるときには（＋）と（－）を逆に取り付けないでください。

・バッテリ端子は確実に取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。
2. バッテリを取り外します。
3. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリを充電します。
4. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。
5. 荷台を下降させます。

ヒューズの点検・交換（セルフスタータ仕様のみ）

⚠ 注　意

・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。

・ヒューズは指定容量のものと交換してください。指定容量以外のものを使用した場合、電装品が故障するおそれがあります。

点検

1. ヒューズを取り外し、ヒューズが切れていないかをチェックします。
2. 切れている場合にはヒューズを交換します。
3. ヒューズを取り付けます。

交換

1. 切れているヒューズを取り外します。
2. 新しいヒューズを取り付けます。

アドバイス

・指定ヒューズ：ミニブレードヒューズ15A

使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警　告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. **「駐車のしかた」**（☞22ページ）の手順に従って、車両を駐車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. **「定期点検表」**（☞28ページ）に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば整備します。
4. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エンジンの長期保管のお手入れをします。
5. 車両からバッテリを取り外し、バッテリの充電を行います。
6. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

☝アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

6　不具合発生時の処置

不具合診断表

⚠ 注　意

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　置	参　照
エンジン関連	エンジンがかからない（スタータが回らない）	始動安全装置が作動している	→走行クラッチレバーを「停車」にする	14ページ
		セフティスイッチの調整不良・故障	→販売店へお問い合わせください	
		バッテリの不良	→バッテリを交換する	44ページ
		バッテリ端子の外れまたは断線	→接続または修理する	
		ヒューズ切れ	→交換する	45ページ
	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	12ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		フューエルコックが閉じている	→フューエルコックを開く	15ページ
		点火プラグの着火不良	→清掃または交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→「始動のしかた」の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	14ページ
	すぐにエンストする	暖気不足	→十分暖気する	16ページ
		チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	16ページ
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	12ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

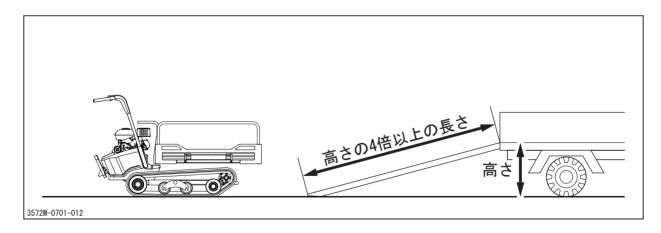
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	36ページ
		Ｖベルトの緩み	→調整する	40ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	34ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	16ページ
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	36ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	34ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アクセルレバーが引っかかる		→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	クラッチをつないでも車体が動かない	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		Ｖベルトの緩み	→調整する	
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	17ページ
	クラッチの切れが悪い	Ｖベルトの調整不良	→調整する	40ページ
	Ｖベルトが滑る	Ｖベルトの緩み	→調整する	40ページ

6　不具合発生時の処置

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処　　　置	参 照
走行装置関連	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	旋回が円滑に行えない	サイドクラッチの調整不良	→調整する	42ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	転輪、スプロケット、遊動輪より不連続音または異常発熱がある。		→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキの効きが悪い	ブレーキの調整不良	→調整する	41ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

- トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。
- 作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- 積み降ろしは歩行運転で行ってください。
- 前進でゆっくりと積み込んでください。
- アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- 輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 歩行運転、前進でゆっくりと積み込みます。
4. **「駐車のしかた」**（☞22ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。